

税制調査会（第19回総会）終了後の記者会見議事録

日 時：令和4年10月18日（火）16時23分

場 所：財務省第3特別会議室

○中里会長

本日も、税目ごとの議論として、「個人所得課税（2回目）」を議題に議論いたしました。事務局からの説明の後、委員の間での意見交換の時間を設けた次第で、その内容については皆様お聞きになったとおりでございます。

次回総会に関しましても、税目ごとの議論を行いたいと考えておりますが、開催の日時、議題などの詳細は、決定次第、改めて事務局から皆様に御連絡いたしますので、よろしく願いいたします。

○記者

本日、たくさんの意見が寄せられていた退職所得控除についてですけれども、現状だと勤続年数が長いほど控除額が増えるという性格を持つと思うのですが、ライフコースの選択に中立な税制という意味で、中里会長はどのような在り方が望ましいとお考えになるか、お聞かせください。

○中里会長

長期的な人生設計の前提となる制度の安定性というのは、一定程度重要ではないかと思っています。

昔、皆さんの先輩方が会社にお入りになった頃は、何十年勤めると退職金が出て、その後年金がと、そういう制度を前提に人生設計を立ててこられたわけですね。それが途中でぱっと変わるということについては、もちろんそれが必要な場合もありえますけれども、急にこうなった場合にお困りになる方もいらっしゃるのではないかと、いう感じを少し抱きました。

だから、退職の問題については、確かに理論上はこうだということはあるのかもしれませんが、現実にある制度を前提として生きてきた方に対して急に制度を変えることに関して、法律の世界ではグランドファーザー・クローズ、経過措置を設けるとか、そういうものがないと、急な変更だとどうなるのかなと、そんな気持ちがしました。

ただ、今の制度を理論的に見て、長く勤めれば勤めるほど控除が大きくなって、しかも退職金については分離課税で負担が軽くなっているということについての皆さんの問題意識は重々分かります。

○記者

政府税調の役割分担というところで今日御意見が出たかと思うのですが、今年NISAとiDeCoの改革というのが一つ年末に向けた議論の柱になってくると思うのですが、政府税調以外の会議体でもその議論がされていて、政府税調との役割分担はどうなっているのでしょうかという御意見があったと思うのですが、中里会長はどのよ

うにお考えになりますか。

○中里会長

党の大綱や政府の大綱を出すための年度改正のお話というのは、党税調とか政治過程でのお話が中心になるのだと思います。

政府税調は、中長期的という使命ないし役割を与えられていますので、中長期的な観点について専門的な立場から、あるいは理論的な観点から議論するということです。

ただ、年度改正についてももちろん、中長期的な視点及び理論的な観点から議論をすることは当然あり得ると思いますけれども、一応は分業がきちんとできているのではないかと思います。

[終了]